スターは何故☆美しいのか

「忍びの術」巧みな体の使い方

ネイマール ブラジル

体の使い方が抜群にうまいネイマール。右はクロアチアのラキティッチ ＝12日（AP）

ネイマールの走りの特徴は「忍びの術」と言っていい。開幕戦のクロアチア戦の前半21分の場面。（サイドバックの）アウベスからパスをもらうように自陣に向かって走り、急激に方向転換して敵陣の右サイドに向かった。スーっと上下動のないコントロール走。クロアチアは誰も、ネイマールが右サイドに走っていることに注意が向いていなかった。

しかも、つま先走りではなく、足裏がフルフラット着地で力感がない。速く走っていないようで、相手を置き去りにできる。動き出しの速さ、動作の起こりが見えないので、相手が遅れてしまうのだ。クロアチア選手の走りとは質が違う。

その後、ネイマールは受けたパスを得意のドリブルでペナルティーエリア内に持ち込もうと中に切り込む。クロアチアのラキティッチが内側から追いついて体を当ててくるが、ネイマールは球と相手の間に右腕と体を入れるだけで、力んで当たり返しにいかなかった。

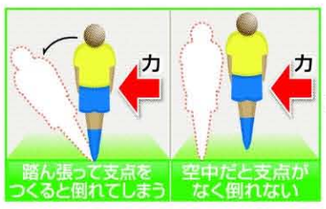
相手が近づくとネイマールは力を抜く。着地した足を踏ん張るような体の使い方はしない。踏ん張ると逆に倒れたり、バランスを崩したりしてしまう。力を抜いて落下するように両足が空中にある瞬間に相手と接触すると、こちらの体は平行移動するだけなので、むしろ相手から離れることができる。

さらに右腕は空手チョップのように外に回旋（外旋）している。上腕が外旋した腕と背中はコンタクト力が強く、相手の勢いを止めることができる。手のひらを相手に向けるようにすると、上腕は内旋して勢いを止められない。

つまり、フィジカルが強いというより、フィジカルリテラシー（体の使い方）が実にうまいのだ。これは、教えられたのではなく、子供のころから自然と染みついたものだと思う。ブラジルのサッカーの長い歴史と文化の最先端にいるのがネイマールだとも言える。

相手との接点にとらわれないのがネイマールの真骨頂。意識（魂）を自分の体や相手との接点に置かないで次のプレーの空間に投げ出し、その魂に引っ張られるようにスーっと抜けていってしまう。

（小田伸午 関西大学人間健康学部教授）



◇ W杯ブラジル大会のスター選手のプレーをスポーツ科学を専門とする小田教授が分析します。（随時掲載）

1次リーグ勝敗表

A組	ブラジル	メキシコ	カメルーン	クロアチア	勝ち点	得点	失点	得失差
①ブラジル		18日4時	24日5時	3○1	3	3	1	2
②メキシコ	18日4時		1○0	24日5時	3	1	0	1
③カメルーン	24日5時	0●1		19日7時	0	0	1	-1
④クロアチア	1●3	24日5時	19日7時		0	1	3	-2

B組	オランダ	チリ	オーストラリア	スペイン	勝ち点	得点	失点	得失差
①オランダ		24日1時	19日1時	5○1	3	5	1	4
②チリ	24日1時		3○1	19日4時	3	3	1	2
③オーストラリア	19日1時	1●3		24日1時	0	1	3	-2
④スペイン	1●5	19日4時	24日1時		0	1	5	-4

C組	コロンビア	コートジボワール	日本	ギリシャ	勝ち点	得点	失点	得失差
①コロンビア		20日1時	25日5時	3○0	3	3	0	3
②コートジボワール	20日1時		2○1	25日5時	3	2	1	1
③日本	25日5時	1●2		20日7時	0	1	2	-1
④ギリシャ	0●3	25日5時	20日7時		0	0	3	-3

D組	コスタリカ	イタリア	イングランド	ウルグアイ	勝ち点	得点	失点	得失差
①コスタリカ		21日1時	25日1時	3○1	3	3	1	2
②イタリア	21日1時		2○1	25日1時	3	2	1	1
③イングランド	25日1時	1●2		20日4時	0	1	2	-1
④ウルグアイ	1●3	25日1時	20日4時		0	1	3	-2

E組	フランス	スイス	エクアドル	ホンジュラス	勝ち点	得点	失点	得失差
①フランス		21日4時	26日5時	3○0	3	3	0	3
②スイス	21日4時		2○1	26日5時	3	2	1	1
③エクアドル	26日5時	1●2		21日7時	0	1	2	-1
④ホンジュラス	0●3	26日5時	21日7時		0	0	3	-3

F組	アルゼンチン	イラン	ナイジェリア	ボスニア	勝ち点	得点	失点	得失差
①アルゼンチン		22日1時	26日1時	2○1	3	2	1	1
②イラン	22日1時		0△0	26日1時	1	0	0	0
②ナイジェリア	26日1時	0△0		22日7時	1	0	0	0
④ボスニア・ヘルツェゴビナ	1●2	26日1時	22日7時		0	1	2	-1

G組	ドイツ	米国	ガーナ	ポルトガル	勝ち点	得点	失点	得失差
①ドイツ		27日1時	22日4時	4○0	3	4	0	4
②米国	27日1時		2○1	23日7時	3	2	1	1
③ガーナ	22日4時	1●2		27日1時	0	1	2	-1
④ポルトガル	0●4	23日7時	27日1時		0	0	4	-4

H組	ベルギー	アルジェリア	ロシア	韓国	勝ち点	得点	失点	得失差
ベルギー		18日1時	23日1時	27日5時	—	—	—	—
アルジェリア	18日1時		27日5時	23日4時	—	—	—	—
ロシア	23日1時	27日5時		18日7時	—	—	—	—
韓国	27日5時	23日4時	18日7時		—	—	—	—

※日時は日本時間。
1次リーグは6月13～27日まで

2014 FIFA WORLD CUP Brasil

ナイジェリア 消化不良

98年以来の勝利遠く

◇…アフリカ王者ナイジェリアはイランの術中に陥った。ボール保持率63％だったが、人数をかけて守る相手を攻略できず、消化不良のまま0―0で終了した。W杯では1998年フランス大会のブルガリア戦を最後に9試合勝利がない。大黒柱のミケルは「フラストレーションがたまる展開だった」と吐き捨てるように言った。

荒れたピッチでミスも目立った。それでもベテランのヨボは「ピッチは悪くなかった。言い訳にできない」と話し、GKエニェアマは「誰のせいでもない。次に進むだけ」と切り替えた。（共同）

▽交代【イ】ジャハンバフシュ（後28分、デヤガ）ショジャエイ（後44分、ヘイダリ）【ナ】ヨボ（前29分、オボアボナ）アメオビ（後7分、モーゼス）オデムウィンジ（後24分、アジーズ）
▽警告【イ】ティモリアン

【イラン―ナイジェリア】激しい競り合いを見せるナイジェリアのオシャニワ（上）とイランのグーチャンネジャド （AP）

ユニホーム 無事交換

◇…イランは各選手へ支給されるユニホームの数が少なく、試合後に相手選手と交換できないのではと大会前に話題となったが、初戦を終えてナイジェリア選手と互いの健闘をたたえて交換する選手もいた。

ケイロス監督は「われわれは経済や政治の問題を抱え、他の31チームとは置かれている状況が全く違う。その中で戦った選手たちは同情と称賛を受けるべきだ」と訴えた。（共同）

パ・本塁打（17日現在）

ベーニャ	（オ）	16
ジョーンズ	（楽）	16
松田	（ソ）	12
中田	（西）	12
陽岱鋼	（日）	11
中田	（ソ）	11
内川	（ソ）	10
李大浩	（日）	9
ミランダ	（ソ）	9

パ・リーグ勝敗表（17日現在）

	試	勝	敗	分	率	差	交流
①オリックス	63	40	23	0	.635		13－8
②ソフトバンク	62	36	23	3	.610	2.0	11②7
③日本ハム	62	31	30	1	.508	6.0	9①9
④ロッテ	62	29	32	1	.475	2.0	10－9
⑤西武	62	26	36	0	.419	3.5	11－10
⑥楽天	61	24	37	0	.393	1.5	7－13

10TH ANNIVERSARY 日本生命 セ・パ交流戦 2014

☂セルト―ニャイタ（鹿児島）	阪神 4	ロッテ 6	西武 5	巨人 8
	―3	―4	―0	―0
				オリックス
				中日
				DeNA
				日本ハム

セ・リーグ勝敗表（17日現在）

	試	勝	敗	分	率	差	交流
①巨人	64	38	26	0	.594		15－6
②阪神	65	34	31	0	.523	4.5	9－12
③広島	62	32	30	0	.516	0.5	5－15
④中日	64	30	33	1	.476	2.5	11①9
⑤ヤクルト	61	26	33	2	.441	2.0	7②9
⑥DeNA	60	24	36	0	.400	2.5	9－10

セ・本塁打（17日現在）

エルドレッド	（広）	21
バレンティン	（ヤ）	18
ロペス	（巨）	14
ゴメス	（神）	12
雄平	（ヤ）	10
ルナ	（中）	9
和田	（中）	9

マートン サヨナラ打

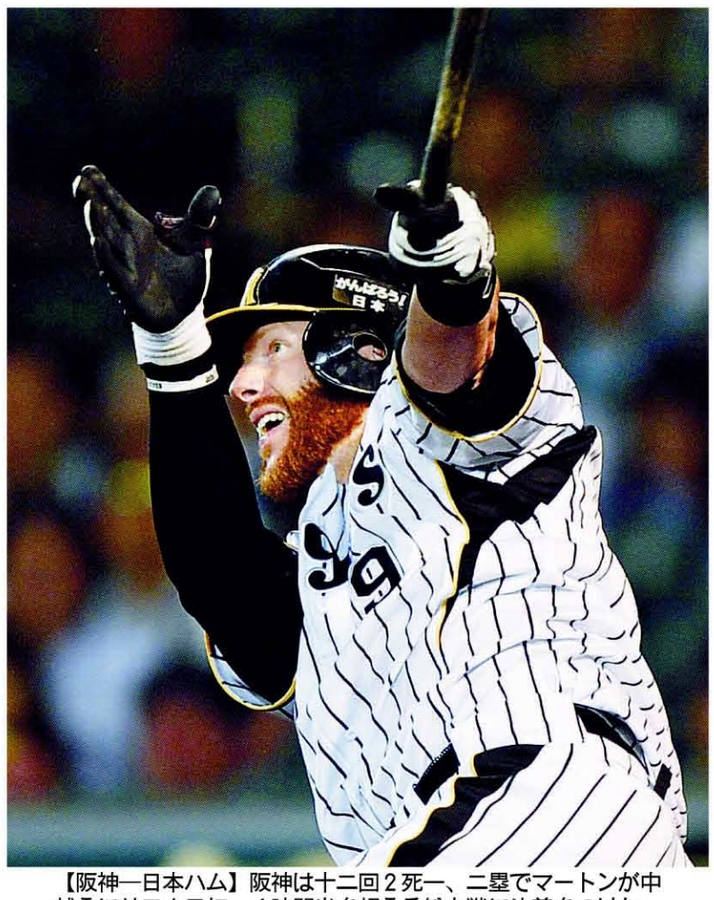
トラ 交流戦初の連勝

阪神ナインの思いを乗せた打球が、中堅手の頭を越えてグラウンドに弾んだ。延長十二回、2死一、二塁から、マートンがチーム今季3度目となるサヨナラ打。もつれにもつれた試合に土壇場で決着をつけ、「自分としては、ああいう場面は好き。楽しんで打席に入ったよ」とほおを緩めた。

2死から鳥谷の四球と新井良の左前打で紡いだ好機。背番号9は、カーターの投じた初球の外角スライダーを見逃さなかった。「芯で捉えられたし、強くたたけた。打った瞬間、抜けると思ったよ」。殊勲の男は瞬く間に歓喜の輪にのまれた。

それもそのはずだ。先発藤浪がともに自己最多となる136球、13奪三振で8回1失点の快投。八回に勝ち越したが、後を託した呉昇桓が1点差を守れず、2失点。九回裏に追いつき、必死の継投で粘った末だった。

劇的な一打で交流戦で初めて連勝し、セ・リーグ2位にも浮上した。和田監督は「最後に一番いいバッターがいた。どんぴしゃだったね」。4時間46分の激闘にも疲れを見せず、マートンをねぎらった。（坂井朝彦）



【阪神―日本ハム】阪神は十二回2死一、二塁でマートンが中越えにサヨナラ打。4時間半を超える総力戦に決着をつけた

セ・打撃10傑（17日現在）

	率	試	打	安	本	点
①大島（中）	.333	64	270	90	0	13
②鳥谷（神）	.329	65	243	80	5	34
③ルナ（中）	.324	64	250	81	9	44
④畠山（ヤ）	.3194	56	216	69	7	44
⑤山田（ヤ）	.3192	61	260	83	8	37
⑥マートン（神）	.3166	64	240	76	8	43
⑦上本（神）	.3165	52	199	63	1	16
⑧菊池（広）	.30638	62	235	72	5	24
⑨森野（中）	.30630	62	222	68	5	43
⑩川端（ヤ）	.305	59	233	71	7	32

パ・打撃10傑（17日現在）

	率	試	打	安	本	点
①糸井（オ）	.349	63	235	82	8	35
②柳田（ソ）	.336	62	217	73	8	35
③長谷川（ソ）	.332	62	229	76	4	28
④内川（ソ）	.324	45	173	56	10	30
⑤中村（ソ）	.308	61	234	72	3	29
⑥李大浩（ソ）	.303	62	241	73	9	34
⑦嶋（楽）	.299	53	164	49	1	15
⑧藤田（楽）	.2948	61	234	69	1	17
⑨角田（ロ）	.29468	62	207	61	3	26
⑩平野恵（オ）	.29464	61	224	66	0	14

十亀2安打完封

【西武】十亀が中日打線を2安打に抑え、今季初完封。「最近完投していなくて中継ぎに迷惑を掛けていた。良かった」と汗をぬぐった。

開幕当初は抑えを任されたが、思うような結果が出せず、5月途中に先発へ転向を命じられた。「悔しかった。複雑な気持ちのまま野球をやっていた」。後ろで控える投手の気持ちが分かり、最後までマウンドを守ることにこだわりが増した。田辺監督代行も「十亀に尽きる。先発の方が生き生き伸び伸びやっている」と目を細めた。

プロ野球 短信

17日

〈DeNA〉ブランコが「左大腿（だいたい）二頭筋肉離れ」、荒波が「右ふくらはぎ肉離れ」と診断されたと発表した。ブランコは14日の試合中に、荒波は14日の練習中に痛めていた。

〈楽天〉星野仙一監督が胸椎黄色靱帯（じんたい）骨化症と腰椎椎間板ヘルニアの手術を受けて無事終了し、リハビリを開始したと発表した。日常生活などは明らかにしていない。星野監督は症状が悪化したため、5月26日から休養した。立花陽三球団社長は球団を通じ「直接お話をさせていただき、元気な声を聞いてひとまず安心しました」とコメントした。

◉杉内が危険球退場 巨人の杉内俊哉投手が17日、オリックス3回戦（東京ドーム）で危険球による退場処分を受けた。三回1死無走者で平野恵の頭部に当てた。危険球による退場は今季2人目。

◉交流戦の日程追加 セ、パ両リーグは17日、交流戦日程の追加を次の通り発表した。

▽6月20日 ヤクルト―ソフトバンク（18時・神宮）

◉7月4日に長嶋VS.金田 巨人は17日、球団OBでともに野球殿堂入りしている長嶋茂雄、金田正一両氏が7月4日に東京ドームで行われる中日戦の試合前に、打者と投手として1打席限りの対戦を行うと発表した。両氏の対戦としては、1958年4月5日に長嶋氏がデビュー戦で当時、国鉄（現ヤクルト）のエースだった金田氏に4打席連続空振り三振を喫したことが語り継がれている。

大谷、きょう甲子園初登板

【日本ハム】大谷が18日の阪神戦で先発し、プロ2年目で公式戦では初めて甲子園で登板することが17日、決まった。

予告先発として発表されたこの日は、約20球の投球練習を行った。甲子園ではことしのオープン戦で投げただけに「高校のときは特別だが、今はそういう意識はない」と平常心を強調。阪神打線には「右の外国人の一発を警戒しないと。上位打線がしっかりしているので、いい形で回したくない」と対策を口にした。

西まさか 6失点KO

【オリックス】防御率12球団トップの西が四回に乱れた。連打で無死一、二塁とされ、続くアンダーソンに右前へ運ばれた。先制されたかと思われたが、糸井が好返球で二塁走者を本塁で刺し、セペダを三振に仕留めて何とか2死一、二塁までこぎ着けた。

ただ、ここで踏ん張れなかった。長野に「ちょっと高かった」というスライダーを右越え三塁打にされて2失点。ロペスにも適時打を許した。五回は阿部に3ランを浴び、今季ワーストの6失点で、最短の五回途中で降板。「チームに申し訳ない」とうなだれた。

【巨人―オリックス】オリックス先発の西は五回に阿部に3ランを浴びるなど今季ワーストの6失点と乱れた（大西正純撮影）

MLB

16日

▽ア・リーグ
インディアンス 4―3 エンゼルス
レイズ 5―4 オリオールズ
レッドソックス 1―0 ツインズ

▽ナ・リーグ
カブス 5―4 マーリンズ
フィリーズ 6―1 ブレーブス
カージナルス 6―2 メッツ
ブルワーズ 9―3 ダイヤモンドバックス
ドジャース 6―1 ロッキーズ

▽交流戦
マリナーズ 5―1 パドレス
レンジャーズ 14―8 アスレチックス
ロイヤルズ 11―8 タイガース

野球独立リーグ

17日

【BC】群馬4―3石川
◆野球 東都大学リーグ入れ替え戦（17日、神宮）
②青学大2勝
立正大（2部1位）002 000 000 002
青学大（1部6位）100 020 01×4
（青学大は1部残留）
◆プロボクシング（17日、後楽園ホール）
▽東洋太平洋フライ級王座決定戦12回戦
江藤 光喜（白井・具志堅スポ）KO 8回2分51秒 ジェイソン・ディアレ（フィリピン）50・8キロ
50・7キロ
（江藤は新王者）

大リーグ日本選手成績（16日）

【野手】	打数	安打	打点	本塁	今季通算 打率	点	本
青木 宣親	4	1	0	0	.259	14	0

【投手】	回数	安打	失点	勝	敗	今季通算 S	防御率
S上原 浩治	1	0	0	1	1	15	0.57

（注）Sはセーブ

きょうのスポーツ

【卓球】荻村杯ジャパン・オープン第1日（10時・横浜文化体育館）

きょうのプロ野球

巨人―ヤクルト（先発＝ヤ・竹―巨・金子）18・0
DeNA―ロッテ（先発＝井納―藤岡）18・0
中日―西武（先発＝大野―牧田）18・0
阪神―楽天（先発＝岩田―大谷）18・0
広島―楽天（先発＝野村―川井）18・0
巨人―ヤクルト（先発＝ヤ・竹―巨・金子）18・0
DeNA―ロッテ（先発＝井納―藤岡）18・0
中日―西武（先発＝大野―牧田）18・0
阪神―楽天（先発＝岩田―大谷）18・0
広島―楽天（先発＝野村―川井）18・0
巨人―ヤクルト 18・0東京D
横浜―中日 18・0ナゴヤD
西武―ソフトバンク 18・0
オリックス―日本ハム 18・0
ロッテ―巨人 18・0
楽天―DeNA 18・0
阪神―広島 18・0
ヤクルト―中日 18・0
西武―巨人 18・0
ソフトバンク―オリックス 18・0
日本ハム―ロッテ 18・0
DeNA―横浜 18・0
楽天―阪神 18・0
広島―ヤクルト 18・0
中日―巨人 18・0
西武―ソフトバンク 18・0
オリックス―日本ハム 18・0
ロッテ―DeNA 18・0

◇甲子園（③阪神2勝1敗）

日本ハム	000	010	002	000	3
阪神	010	000	011	001X	4

（延長十二回）

勝 金田 19試合1勝
敗 カーター 18試合2敗
観 33562人

阪神がサヨナラ勝ちし、交流戦初の連勝で2位浮上。延長十二回2死から四球と安打で好機を得てマートンの二塁打で勝負を決めた。金田がプロ初勝利。日本ハムは九回に逆転したが、最後はカーターが崩れた。

3日本ハム	打数	安打	打点	本塁	打率
4 3西川	4	2	3	⑤	.254
⑧村田	5	1	0		.263
⑥大引	5	0	0	④	.272
⑦中田	5	0	0	⑪	.253
③ミランダ	4	0	0	⑨	.248
2市川	1	0	0		.244
⑨石川慎	5	1	0	①	.271
DH佐藤賢	4	0	0	③	.204
②大野	4	3	0	③	.205
R杉谷	0	0	0	①	.185
5飯山	1	0	0		.304
8 4中島	2	0	0		.250
振球犠残					
16	5	3	9	4	0.7 3 .243

回	打	安	振	球	責
上沢	7	2	6	7	1 1
クロッタ	1	4	1	0	0 1
増井	1	6	1	1	2 1
H宮西	1	6	1	1	2 0
H藤岡	1	3	1	0	0 0
敗カーター	⅔	5	2	2	1 1
藤浪	8	32	4	13	4 1
呉昇桓	1	6	2	2	1 2
H福原	1	3	0	1	0 0
H安藤	⅔	3	1	0	0 0
H加藤	1	3	0	0	0 0
勝金田	⅓	1	0	0	0 0

阪神	打数	安打	打点	本塁	打率
④上本	5	2	0	①	.317
⑧大和	3	1	0	①	.230
H坂	0	0	1		.273
2清水	1	0	0		.045
⑥鳥谷	4	0	0	⑤	.329
DHゴメス	4	2	0	⑫	.278
RD柴田	0	0	0		.208
HD新井良	2	1	0	⑥	.292
⑦マートン	4	3	1	⑧	.317
⑤今成	3	0	0	②	.304
③新井貴	4	3	0	②	.288
⑨緒方	2	0	0	②	.280
H関本	1	0	0		.250
98後介	2	0	1		.235
②梅野	3	1	0	②	.228
R9田上	2	0	0		.290
振球犠残					
11	6	4	11	4	0 1 3 3 .267

回	打	安	振	球	責
鈴木翔	1	6	1	2	1 1
岡田	1	3	0	1	0 0

▽三塁打＝西川
▽二塁打＝新井貴、マートン2、梅野、西川、ゴメス
▽盗塁＝大引（10）
▽失策＝石川慎
▽暴投＝藤浪＝7回
▽時間＝4時間46分

◇浜松（③西武2勝1敗）

西武	102	001	010	5
中日	000	000	000	0

勝 十亀 19試合4勝4敗3S
敗 朝倉 12試合3勝4敗
本 秋山1号①（鈴木翔）
観 10204人

西武の十亀が今季初完封で4勝目。低めを意識した投球で散発2安打に抑えた。打線は一回にメヒアの左前打で先制。三、六回に加点すると八回には秋山がソロ本塁打を放った。中日は二塁すら踏めなかった。

3西武	打数	安打	打点	本塁	打率
⑧秋山	3	1	1	❶	.247
5渡辺	5	4	1		.348
⑦栗山	4	0	0	①	.278
DH中村	4	2	0	⑫	.297
③メヒア	5	2	2	⑤	.340
6永江	0	0	0		.228
⑨木村	4	2	0	⑥	.239
⑤脇谷	3	0	0		.243
H森本	1	0	0		.253
53山崎	1	0	0	①	.250
②炭谷	5	0	0	①	.189
④金子侑	4	1	0		.247
振球犠残					
13	4	1	12	3	9 1 2 4 .250

回	打	安	振	球	責
勝十亀	9	2	9	2	1 0 1 0
敗朝倉	3	1	6	7	5 0 3
浜田	4	1	9	4	5 3 1

中日	打数	安打	打点	本塁	打率
⑧大島	3	0	0		.333
⑥エルナンデス	4	0	0	③	.211
⑤ルナ	3	1	0	⑨	.324
3森野	3	0	0	⑤	.306
DH和田	3	0	0	⑨	.258
⑨平田	3	1	0	⑤	.284
⑦藤井	3	0	0		.125
②松井雅	3	0	0		.173
④谷	2	0	0		.333
3中田	1	0	0		.167
振球犠残					
10	1	0	2	2	8 2 0 .259

回	打	安	振	球	責
大嶺祐	6⅓	23	4	4	2 2
H益田	2	0	1	0	0 0
ロ田	2⅔	4	2	0	0 2
古谷	2⅔	3	1	0	2 0
勝山野	⅓	1	0	1	0 0
S西野	1	3	0	1	0 0

▽二塁打＝中村、金子侑
▽失策＝エルナンデス
▽暴投＝朝倉＝3回
▽時間＝3時間10分

◇東京ドーム（③巨人3勝）

オリックス	000	000	000	0
巨人	000	340	01X	8

勝 笠原 18試合1勝1S
敗 西 12試合9勝3敗
本 阿部7号③（西）
観 45745人

巨人が7連勝。四回に長野の先制三塁打、ロペスの適時打で3点。五回は阿部の3ランと坂本の適時打で4点。杉内が三回途中に危険球退場となったが、笠原が好救援した。オリックスは交流戦の自力優勝がなくなった。

3オリックス	打数	安打	打点	本塁	打率
④平野恵	1	0	0		.295
4原拓	2	0	0		.261
⑥安達	3	2	0	④	.237
⑤ヘルマン	4	0	0	⑤	.267
⑨糸井	4	0	0	⑧	.349
DHペーニャ	4	1	0	⑯	.264
8 7坂口	3	0	0	②	.262
⑦竹原	1	0	0	①	.190
8駿大	2	1	0	①	.328
③T―岡田	3	0	0	⑧	.277
②伊藤	3	0	0	②	.248
2伏見	0	0	0		.000
振球犠残					
12	2	0	5	3	0 4 0 .263

回	打	安	振	球	責
敗西	4⅔	23	12	4	0 6
中山	1	6	2	1	1 1
マエストリ	2	6	0	0	1 0
海田	1	6	2	1	1 1
杉内	2⅓	10	2	3	1 0
勝笠原	2⅔	9	2	3	0 0
久保	1	4	0	2	1 0

巨人	打数	安打	打点	本塁	打率
⑥坂本	5	3	1	③	.293
④片岡	4	0	0	④	.278
4井端	1	0	0		.246
9 7亀井	3	2	0	③	.306
R7鈴木	0	0	0		.273
⑤村田	5	3	1	⑧	.271
②阿部	5	2	3	❼	.233
⑦アンダーソン	4	2	0	⑦	.327
8松本哲	0	0	0		.279
DHセペダ	3	0	0	④	.172
8 9長野	4	2	2	④	.266
2ロペス	4	2	1	⑭	.255
3中井	0	0	0		.265
振球犠残					
6	3	0	9	3	8 1 6 8 .265

回	打	安	振	球	責
青木	1	3	0	1	0 0
土田	2	6	0	3	0 0

▽三塁打＝長野
▽二塁打＝亀井2、ペーニャ
▽盗塁＝安達（9）
▽時間＝2時間59分

◇横浜（③DeNA2勝1敗）

ロッテ	000	003	102	6
DeNA	000	020	020	4

勝 上野 13試合1勝
S 西野 28試合1敗14S
敗 ソーサ 22試合3敗3S
本 井手2号②（大嶺祐）
観 22536人

ロッテが接戦を制した。4―4に追い付かれた直後の九回1死二、三塁から失策で1点を勝ち越し、今江の犠飛でもう1点加えた。上野が今季初勝利。DeNAは2失策が失点につながり、4番手のソーサも誤算だった。

3ロッテ	打数	安打	打点	本塁	打率
8 7荻野貴	4	1	0	③	.256
4 6鈴木	5	3	0	③	.274
③井口	4	1	1	⑥	.248
R3細谷	0	0	0		.200
H4根元	1	0	0	②	.219
⑤今江	3	1	1	③	.275
⑨角中	3	1	1	③	.295
DHブラゼル	2	0	0	①	.292
HDサブロー	1	0	0	③	.280
⑦ハフマン	4	1	0		.262
8岡田	0	0	0		.289
②吉田	4	2	0	②	.238
⑥クルーズ	4	1	0	⑥	.240
R3金沢	0	0	0		.375
振球犠残					
7	4	0	5	3	2 7 4 .248

回	打	安	振	球	責
敗ソーサ	1	5	2	0	0 0

DeNA	打数	安打	打点	本塁	打率
⑧松本	4	1	0		.167
⑥山崎	3	1	0	②	.255
H梶谷	1	1	1	⑦	.263
R6白崎	0	0	0		.238
④石川	4	2	1	③	.265
⑤グリエル	2	0	0	①	.296
③バルディリス	3	0	0	⑧	.264
DH井手	4	1	2	❷	.211
②黒羽根	2	0	0		.260
H9金城	2	0	0		.207
振球犠残					
7	4	0	5	3	2 7 4 .248

回	打	安	振	球	責
久保	6	2	6	7	2 2
方谷	1	5	2	0